

川根本町 図書室だより

10月

2023年10月号

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号:川根本町内7コース
TEL:0547-59-3106(文化会館)
TEL:0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間:午前9時~午後5時
- ☆ 休室日:月曜日・第3日曜日(15日)・祝日の翌日(10日)
- ☆ やまびこ号巡回コースは



かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

新 着 図 書

『遊んで見つける学びの革命』

宝槻泰伸 著 小出真朱 まんが 小学館

京大3兄弟が家庭でやっていた勉強法

文



親ができる、子どもを夢中にさせる教育法わが子の“学びスイッチ”の入れ方教えます。

いい学校に合格するための勉強ではなく、毎日の生活で、気づいたら学ぶことが大好きになる...そんな、“生きることが楽しくなる”家庭教育法が満載です!!

『服はいっぱいあるのにあか抜けきれないと思ったら』

黒田茜 著 珍田 イラスト かんき出版

おしゃれになれる5つのルール

山



服のいいところは、私たちをスタイルアップして見せてくれるところ。本当の体型はそこまで素敵じゃなくても、コーディネート次第で、「いいスタイル」を想像させることができる。本書では、何を着てもあか抜けなかった方々の悩みを解決するために、共通して使えるノウハウを「5つのルール」として紹介します。

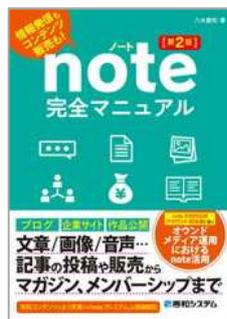
『note完全マニュアル』

八木重和 著 秀和システム

情報発信もコンテンツ販売も!

文

日常の記録から創作活動まで文章やイラスト、写真、音声を手軽に投稿できる情報発信ツール「note」。サービスの全体像から、はじめ方、機能、有料コンテンツの販売、サークル活動まで詳しく解説。企業インタビューも掲載。



『60歳からの青春18きっぷ入門』

松本典久 著 天夢人

きっぷを知ると旅がもっと楽しくなる!

山

今、シニア世代に静かなブームとなっているJR全線乗り降り自由な「青春18きっぷ」。5回(人)分セットで1万2050円のお得な「青春18きっぷ」を使った旅の知識やアドバイスを、鉄道ジャーナリストの松本典久さんが実体験を交えてわかりやすく解説。



CD

NEW



山

『LOVE CYCLE』
綾香



山

『絵本好きになる
えほんうた』
歌手多数

◎ 新着図書



川根本町
インターネット
図書室
ホームページ



図書だより
バックナンバー

新刊の詳しい情報は、【川根本町図書ネット】で検索。または、右記QRコードよりご確認ください。

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>● 『カモナマイハウス』 重松清 著 中央公論新社 不動産会社で空き家のメンテナンス業に携わる孝夫。両親の介護を終えた妻・美沙は、ある日、空き家になっている美沙の実家が、気鋭の空間リノベーターによって遺体安置所に改装されようとしていることを知り……。空き家を舞台に繰り広げる涙と笑いのドラマ。</p>	<p>● 『いつまで』 畠中恵 著 新潮社 長崎屋から妖が消えた！ 彼らを探すため、影内に紛れ込んだ病弱若旦那は、すべて西から来た妖・以津真天の仕業だと知る。大事な友を救うため、果敢に悪夢に飛び込んだ若旦那だが、目覚めた先はなんと五年後の江戸……。</p>
<p>● 『私たちの世代は』 瀬尾まいこ 著 文藝春秋 小学3年生になる頃に今までにない感染症が流行し、不自由を余儀なくされた2人の少女、冴と心晴。冴は中学でイジメに遭い、心晴は引きこもりになってしまう。それでも周囲の人々の助けもあり、やがて就職の季節を迎えて…。</p>	<p>● 『前の家族』 青山七恵 著 小学館 中古マンションを購入を決断した、37歳、独身、小説家の猪瀬藍。理想的な新居に出合えたと心躍らす藍だったが、その先に思いもがけない展開が待ち受けていた……。中古物件を買うのがちょっと怖くなるマイホームミステリー。</p>
<p>● 『星合う夜の失せもの探し』 森谷明子 著 東京創元社 スキ野原のまんなかにつつ秋葉図書館には図書館の本で謎を解決してくれる探偵ばりの司書さんがいて……。図書館開館準備の舞台裏を描いた「人日」や、書き下ろし「春嵐」など、全6編を収録。</p>	<p>● 『我が手の太陽』 石田夏穂 著 講談社 鉄鋼を溶かす高温の火を扱う溶接作業はどの工事現場でも花形的存在。その中でも腕利きの伊東は自他ともに認める熟達した溶接工だ。そんな伊東が突然、スランプに陥った……。異色の職人小説</p>
<p>● 『ハンチバック』 市川沙央 著 文藝春秋 井沢積華の背骨は、右肺を押し潰すかたちで極度に湾曲している。両親が遺したグループホームの十畳の自室から積華は、あらゆる言葉を送りだす…。第169回芥川賞受賞。</p>	<p>● 『天災ものがたり』 門井慶喜 著 講談社 我々の祖先は、巨大な自然災害にいかにも立ち向かい、生き抜いてきたのか…。武田信玄が、日本近世の防災上の出発点となった堤防を造るまでを描く「一国の国主」など全6篇を収録する。</p>
<p>● 『おはようさんさん』 きのしたけい 作 コクヨ 朝、目が覚めてお顔をばしゃばしゃごはんをもりもり。起床から登園までの朝の生活習慣を、楽しいことばとイラストで学べる、しかけえほん。</p> 	<p>● 『キン肉マン「技」』 ゆでたまご 監修 学研プラス 『キン肉マン』と「学研の図鑑」が究極のタッグを実現。その技の数々を圧倒的なイラスト量とともにまとめた図鑑。</p> 

『家事か地獄か』 稲垣えみ子 著 目指すは江戸時代の貧乏長屋生活



「掃除機を手放したら掃除がラクになり、洗濯機を手放したら洗濯がラクになり、冷蔵庫もなくしたら炊事が飛躍的にラクになった…。」という著者の稲垣さん。たとえば洗濯機…機械の力でどれほどでも洗える⇒洗い物が増えてしまう⇒洗濯地獄確かにそういう側面もあるかも…。手で洗わなければいけないのなら、工夫して洗濯物を減らそうとするかも…。真似はできないし、やろうとも思わないのですが、極端な選択の先きに著者が見出していくものに思わず考えさせられました。

また、物をなるべく持たずシンプルな生活をする事の大きな効用として、アメリカの修道女を対象とした研究…これは100歳を超えて脳にアルツハイマーの病変が出現しているにもかかわらず、現実には認知症を発症せず頭が冴えわたっている人が多くいたという研究報告を紹介し、なぜ認知症でも生活に支障をきたさなかったのかを自身の母親の介護体験と照らし合わせながら深く考察していきます。

手放すことによって可能になるラク家事化。さらには、老後の生活を守る要を便利さの中にある深い落とし穴をのぞきこむことで見出していく本書です。

文化会館図書室所蔵

図書室スタッフS